

土壌は陸上における炭素、窒素、リン酸の最大の貯蔵庫であり、微生物、植物、動物、人間の生命活動を支えています。土壌中に蓄えられた炭素、窒素、リンの量は、炭素に関しては全バイオマスの2～3倍、窒素に関しては約20倍、リンに至っては60倍にもおよびます。

しかし、農耕、土壌劣化、地球温暖化、砂漠化などの影響で、陸地表面を覆う肥沃な表土と土壌有機物の消耗が急速に進行しています。特に数千年の時間をかけて蓄積した土壌有機物が数十年の間に人間活動の影響で失われています。

私の好きな言葉に、アメリカ先住民「ホピ族」の言い伝えがあります。「私たちが住んでいるこの土地は、先祖から受け継いだものであると同時に、子孫から借りているものでもある。だから傷つけないで子孫に受け継ぐのだ。」

私たちはこの言葉を肝に銘じて土壌劣化・土壌有機物の消耗に歯止めをかけなくてはなりません。

もうひとつ、お伝えしたいことがあります。私の専門は「腐植(Humus)」ですが、Humus と人間(Human) と水分(Humidity) という言葉は語源が同じだったのです。土と腐植は生命をはぐくみ、そして生命を受け入れるものです。私たちの祖先は、「人」と「土(腐植)」と「水」の深い関係を当然のこととして感じていたのです。

「土」という漢字は、土から植物が芽生えてくる様子を表したものだそうです。また、「生」という漢字をよく見ると、「人」と「土」が組み合わされた字のように見えませんか？私はそのことに気づき、「人は土に生きる」というポスターを書いて、実験室の扉に貼りました。研究室の中と外には、多くの畜大圃場の土壌断面標本を展示してありますので、見てください。(2017年3月退職により、私の研究室はなくなりました。別科ルームの廊下に土壌断面モノリスを数点掲示してあります。)

私個人のホームページを作成しています。過去と現在のさまざまな講義の内容も載せていますので、是非見てください。

<http://timetraveler.html.xdomain.jp/>

補足：Humus という言葉は、もともとは土そのものを意味していたらしい。

謙虚・謙遜(Humility) という言葉も、“Hum” という語幹を持っているが、

これは、人間をもっとも人間らしくする心的態度として生まれた言葉だそうである。

犬養道子「人間の大地」中央公論社 1983 p.213 もひとりの友達